



北海製罐第3倉庫（小樽市北運河）

龍谷大学校友会 北海道支部だより

会費納入会員数 99名
校友支部総数 583名

2022(令和4)
9月20日発行

第21号

発行／龍谷大学校友会
北海道支部
支部長 海野 英爾

事務局
〒047-0028
小樽市相生町8番13号（石井印刷内）
TEL: 0134-23-8484
FAX: 0134-33-8281
MAIL: ipi-ishii@par.odn.ne.jp

支部長挨拶

龍谷大学校友会北海道支部

支部長 海野 英爾

二〇一九年に発覚し、二十年、二十一年、そして二十二年に至つてもなお、パンデミックが治まるどころか、日本をはじめますます蔓延するコロナ禍です。当支部も集い難く、書面総会が三年継続している状況です。皆様にお会いできない淋しさをこらえ、皆様の健康を憂慮することを優先せざるを得ません。

入国・出国の緩和、集会・営業の緩和、ワクチン接種の四回推奨、マスクの屋外解禁など、緩和策が講じられ、かつてのインフルエンザ的軽症に認識され

つつあるようですが、コロナ禍による病症率も死亡数も下がる気配がうかがえない中で、安心できる潮流ではないと判断しています。

支部会員の皆様におかれましては、十分な対策を怠らないことを願うと同時に、こんなときこそ為すべきことを各位が発掘され、粛々と為し、晴れて解禁を迎えて開花できる準備に励まれることを願っています。

合 掌

会員の皆様へ

二〇二二年度の会費徴集は控えることとします。次年度より、またよろしく願います。



2021(令和3)年度 龍谷大学校友会北海道支部事業報告

1. 令和3年度書面総会

2021年4月からの校友会活動は、コロナ禍の収束が見えず、役員会や総会、さらには公開講演会も中止となり、2021年度総会のための役員会も書面にて発送しました。「ご異議」「ご提案」もなかったことから、2022年総会も書面総会と決しました。

また校友会本部においても2021年度に引き続き2022年度も「ふるさとタイム」や「全国支部長会議」をリモートワークにて開催予定と聞き及んでいます。

2. 公開講演会中止

3. 会報発行

発行日：2021年9月10日

発行数：597部（会費納入者114名含む）

令和3年度監査報告

【監査報告】

2022(令和4)年度 龍谷大学校友会 北海道支部の会計処理について監査した結果、適正且つ正確に処理されていることを認めます。

令和4年 7月30日

監査 藤田 善昭 印

令和3年度 龍谷大学校友会北海道支部決算

収入の部

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

款	費 目	令和3年度決算	令和3年度予算	対 比	備 考
1	会 費	297,000	360,000	△ 63,000	99名
2	本部助成金	360,000	240,000	120,000	
3	参 加 費	0	100,000	△ 100,000	総会懇親会
4	寄 付 金		0	0	
5	雑 収 入	8	13,921	△ 13,913	利息 祝儀
6	繰 越 金	946,079	946,079	0	
	合 計	1,603,087	1,660,000	△ 56,913	

支出の部

款 項	費 目	令和3年度決算	令和3年度予算	対 比	備 考
1	総 会 費	41,525	150,000	△ 108,475	石井印刷(資料作成、発送手数料)
2	親睦会費	0	10,000	△ 10,000	
3	公開講演会費	0	200,000	△ 200,000	
4	会報誌費	164,342	200,000	△ 35,658	石井印刷(資料作成、発送手数料等)
5	懇親会費	0	130,000	△ 130,000	
6	会 議 費	2,974	10,000	△ 7,026	石井印刷(役員会案内)
7	交 通 費	0	30,000	△ 30,000	
8	通 信 費	0	10,000	△ 10,000	
9	交 際 費	0	20,000	△ 20,000	
10	事 務 費	0	10,000	△ 10,000	
11	雑 費	17,956	30,000	△ 12,044	会費振り込み手数料
12	予 備 費	0	860,000	△ 860,000	
	合 計	226,797	1,660,000	△ 1,433,203	

収入合計	1,603,087
支出合計	226,797
差 引	1,376,290

2022(令和4)年度 龍谷大学校友会北海道支部事業計画

1. 令和4年度総会開催（書面開催）

日 時：令和4年6月郵送

2. 公開講演会開催

予 定：11月

3. 会報発行

発行日：2022年9月20日

発行数：583部（会費納入者131名含む）

2022年の夏頃からワクチン接種が浸透し始めるとの政府報告が聞こえることから、せめて「公開講演会」を想定している本年秋にはと希望を持っていますが、様子を見て開催の有無を考えたいと思います。ただし変異株蔓延の兆しもあることから楽観できず、9月まで「公開講演会」案内通知がなければ中止とさせていただきます。



令和4年度 龍谷大学校友会北海道支部予算

収入の部

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

款	費 目	令和4年度予算	令和3年度決算	対 比	備 考
1	会 費	270,000	297,000	△ 27,000	90名
2	本部助成金	240,000	360,000	△ 120,000	
3	参 加 費	100,000	0	100,000	
4	寄 付 金	0	0	0	
5	雑 収 入	13,710	8	13,702	祝儀、利息
6	繰 越 金	1,376,290	946,079	430,211	
	合 計	2,000,000	1,603,087	396,913	

支出の部

款 項	費 目	令和4年度予算	令和3年度決算	対 比	備 考
1	総 会 費	150,000	41,525	108,475	
2	親睦会費	10,000	0	10,000	
3	公開講演会費	200,000	0	200,000	
4	会報誌費	200,000	164,342	35,658	
5	懇親会費	130,000	0	130,000	
6	会 議 費	10,000	2,974	7,026	
7	交 通 費	30,000	0	30,000	役員交通費
8	通 信 費	10,000	0	10,000	発送料
9	交 際 費	20,000	0	20,000	
10	事 務 費	10,000	0	10,000	
11	雑 費	30,000	17,956	12,044	振り込み手数料
12	予 備 費	1,200,000	0	1,200,000	
	合 計	2,000,000	226,797	1,773,203	

収入合計	2,000,000
支出合計	2,000,000
差 引	0

コラム

環境と宗教

龍谷大学校友会北海道支部 事務局長

石井 伸 和

■地球環境

地球環境を今日ほど問題視する時代は、過去になかっただろう。地球は今「温暖化」という基礎疾患に苦しんでいる。ひとたび地震、台風、大雨に見舞われると温暖化の合併症で地球の生命体は死活問題に陥っている。そればかりか山火事、干ばつ、赤潮に加え、熱波、寒波など「これまで経験したことのない」異常気象の原因にさえなっている。一言に自然災害、異常気象などと言いつても、実は人災だ。人類の我が儘が引き起こした人工災害にほかならない。

ちなみに近代から現代にかけて（世界では18世紀の産業革命を契機に19～20世紀）、今日G7と称する先進7ヶ国のおよそ7億人が地球の資源を独占して近代化を達成してきたが、21世紀にはNIES、ASEAN、BRICSが後追いで高度経済成長を成し遂げ、およそ地球人口の半分に相当する40億人が地球の資源を食い尽くしている。だからこそ国連は「成長」から「成熟」に、とくに先進国に範を示すことも含めて提唱しているが、ちっとも功を奏していない。

こうして人類の我が儘は、資源の枯渇、廃棄や排気の滞留、つまり「温暖化」という基礎疾患がますます重症化し、地球上の生命体を脅かしている。

■人間環境

18世紀以来の産業革命あたりから、宗教は科学の下請けに位置づけられるようになってきた。科学は「信じる」ことより、「調べる」「考える」ことを強要する。調べも考えもできぬ者は落ちこぼれ、いじめられ、差別されてきた。これら弱

者を救うのが政治にはじまり医者や介護というのが科学のなげやり性だ。

こうして人間環境も「落ちこぼれ」なる現代的基礎疾患を患ってしまった。

■宗教を考える

かつて、そう江戸時代あたりまでの文明環境では、情報技術と情報量、科学技術と学習量ごときが、今日と比べて実に度合いも低く量も少なかった。その分を「信じる」という離れ技で宗教が人々に安心を提供してきた。それはそれは人の心にとってまことに重要であったろう。だからこそ神社仏閣がこれほどまでに建立されてきたし、宗教機関が「宗門人別改帳」などで住民管理的公務を担ってきた。

さて地球環境の基礎疾患と人間環境の基礎疾患を抱えた今日、宗教はどう対応するのだろうか。

この世の為すべくしてなったあらゆる組織は、組織維持を企む前に、外部の問題に向けた志と行動をとってほしいと願う。環境も人間も100%アナログだが、言語としてアナログの対比にデジタルが置かれ、「連続性」「非連続性」と訳されると同時に、今日の進化の多くはデジタル技術に終始している。この社会傾向に人々は教育され、アナログの根幹である環境を無視し、心の問題から離れている。20世紀に「成長から成熟へ」と警鐘が鳴らされたのは、「物から心へ」重点を置いたからだ。科学技術も物も紛れもなく進化しているが、環境と心は退化していると言わざるを得ない。環境を維持するには科学技術の前に心の問題と向き合うのが筋だろう。宗門はもとより龍谷大学も出番ではないか。

本部からの報告

1. 2023年4月龍谷大学心理学部新設

～心のつながりを探求し、社会に力を生み出す～

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、将来の予測が難しい時代となっています。

いま必要なことは、「学び」を深めること。

「つながり」に目覚めること。

龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、地球規模で広がる課題に立ち向かいます。

1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。

その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。

龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited
ムービー



2. 校友会の事業

(1) 煩悩とクリエイティビティ



煩悩と共に生きるため

私たちの中にある「小さな煩悩」を社会のための「大きな煩悩」へ

2021年度より開催している「煩悩とクリエイティビティ」は、人間を突き動かす「煩悩」をテーマに、煩悩と悟りが別のものではなく、一体であるという考え「煩悩即菩提」を基に、日常の『小さな煩悩』を社会のためになる『大きな煩悩』に育てることが可能かもしれないという仮説を検証するべく始めるトークイベントです。

2022年度も各界で活躍されている広義のクリエイターをお招きして、だれにも共通する煩悩の適切な活かし方や、これからの社会に求められる煩悩、「価値創造の条件」について探るトークイベントを計3回開催いたします。

第4回 煩悩とクリエイティビティ

稲田 俊輔氏

料理人・飲食店プロデューサー

× 大谷 由香氏

龍谷大学文学部准教授

オンデマンド配信



第5回 煩悩とクリエイティビティ

2022年10月29日(土) 15:00～17:00

開催形式：ハイブリッド開催

※対面の場合は定員50名。

藤原 麻里菜氏

コンテンツクリエイター・文筆家

× 玉木 興慈氏

龍谷大学文学部長

第6回 煩悩とクリエイティビティ

2023年1月21日(土) 15:00～17:00

開催形式：ハイブリッド開催

※対面の場合は定員50名。

小松 理虔氏

ローカルアクティビスト

× 井上見 淳氏

龍谷大学社会学部准教授

(2) 校友音楽祭 11月27日(日)開催

12月後半からオンデマンド配信予定

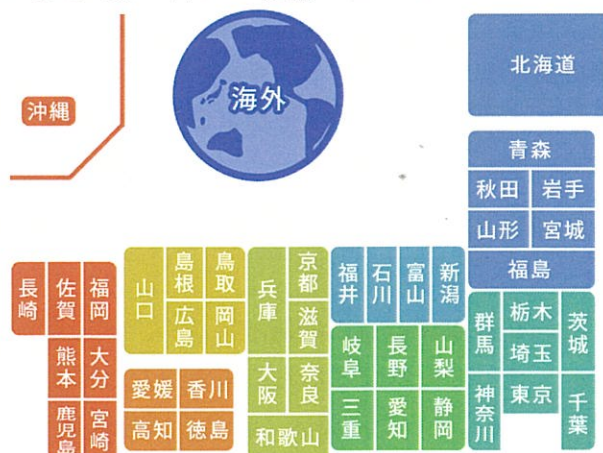
3. 龍谷大学校友会HP

「校友タウン情報」掲載募集

龍谷大学校友会ホームページ「校友タウン情報」のコンテンツでは、全国、全世界の校友がオーナーのお店、会社、寺院、事務所などを紹介しております。道内にも掲載が可能な方がおられましたら、校友会本部まで情報をお寄せください。

また、龍谷大学卒業生向けの特典を提供いただけるお店を募集しております。

例えば・・・『龍大です！と言っていたら、利用券を提示いただければ、ドリンク1杯無料します！』など。ご希望の方は下記へご連絡ください。



■校友会事務局

TEL: 075-645-2015 FAX: 075-645-2017

MAIL: koyu@ad.ryukoku.ac.jp